

広島原爆資料館視察、被爆体験講話聴講、平和施策講義の詰まった日程を終える 2025.01.23
町田市議会 無所属会派 吉田つとむ



視察二日目は、大竹市から広島市に移動し、広島市の平和公園に直行しました。以下のタイムテーブルの通りでした。平和記念資料館 視察では、館内を副館長さんがご案内いただきました。外人客が多く、特に欧米人が目立っていましたし、統計的にもそれが現れているとのことでした。なお、詳細は視察報告書に記載する予定です。なお、この視察にあたって、清溪セミナーの地元議員に様々にお手配いただきました。

なお、この報告書では、視察の概要と所感を同時に記載しました。



4 平和記念資料館 視察 13:15-14:30

5 被爆体験講話聴講 14:30-15:30

6「広島市の平和への取組」講義(広島市平和推進課担当)15:45-16:15

7「ピースツーリズムについて」講義(広島市観光政策部担当者)15:15-16:30

4 平和記念資料館 視察 13:15-14:30

平和記念資料館は2棟の建物を連続して見学できました。館内の見学では、通して副館長さんが同行して丁寧説明をしてくださいました。



映像、写真、パネルの資料、あるいは模型的な資料でよりリアルで再現しようという試みが特徴でした。もう一つの建物は、被爆者の直接資料、(衣類などの身に着けていたもの、あるいは熱線で溶けたり、焦げたものなどが展示、あるいは個人の被ばくから死に至る歴史を写真と解説でストーリーをつづったものなどがあり、私が高校1年生の時に見たものを中心に、現在に合わせたものと感じました。

その時の印象、感想と現在が異なることは、世代が大きく変わったこと、時代が大きく推移した事によって当然かも知れませんが、やはり、映像化されて時点でスマートになってしまった。されてしまった感があります。

もとより、ものが、事柄がそのままということはありませんが、一般事故でも、事件でももっと泥っぽさがありますが、ましてや、生身の人たちがいる頭上に、原子爆弾が落とされ、地上 600m 上

空で爆発させると言うことがあったわけですが、リアルなものが少なくなっているのではないかと、そうした印象を持ちました。他方で、物事を直視することがどれほど可能か、これまた難しい課題が迫ってくる感じがしました。

話しは変わって、アインシュタインはその被害を、被害者をどこで見たのでしょうか。資料で見たかも知れません。しかし、広島の被爆者の幾人に出会ったのでしょうか。こうした問いかけも、現在の原爆資料館のスマートさを見ての感想ともため息ともつかぬものが出てきました。





5 被爆体験講話聴講 14:30-15:30

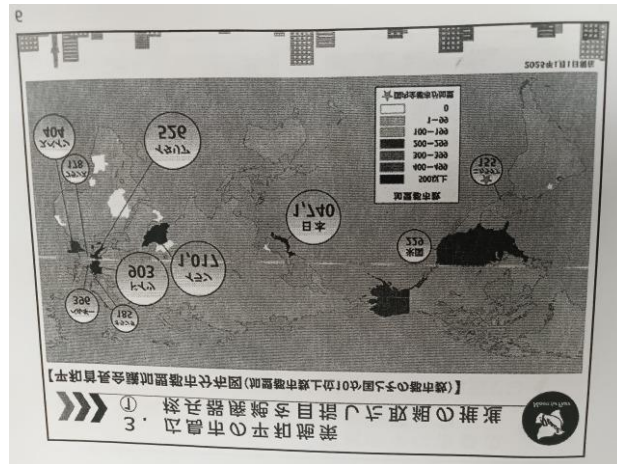
被爆体験の講話は八幡照子さんという方でしたが、8歳で被爆された方で自分の体験を話していただきました。めったに聞けない貴重なお話でしたが、世界を一周して講演されたこともある方でした。そのために英語で講演するのも覚えたとのことでした。お友達が幾人もなくなっていることはもちろん、現在の被爆体験の講話をなさる方もお亡くなりになる方が出ているとのことでした。伝承の大事さを感じさせるものでした。実に明瞭に話されましたが、その悲惨さをリアルに話されましたが、淡々とした話で涙を誘うものが出ていました。現在では、その話に基づいた絵を地元の高校生が再現してくれているそうですが、何度も確認してその絵が出ているそうです。

この後半の話は初めて聞きました。被ばくを自身が体験したとして、それを自分が全部を人に言えることではないでしょう。言葉でいづくしがたいものと推測するものです。

その意味では、被ばく者自身とそのずっと後の世代が会話をして、絵として表現する作業は、現在に通じる、他者に通じる、そうした意義ある伝承かもしれません。



6「広島市の平和への取組」講義(広島市平和推進課担当) 15:45-16:15



従来知らなかったことで、広島市には「広島平和記念都市建設法」という法律が1949年8月6日に施行され、広島市を平和記念都市として建設することを目的とされており、さらに、広島市長には、広島市の市長は、その住民の協力及び関係諸機関の協力により、平和記念都市を完成することについて、不断の活動をしなければならない。と定められていました。

この日に尋ねませんでしたでしたが、長崎市にも同様な法律が制定されたのではないのでしょうか。調べてみると、長崎市にも同様な法律が制定されており、長崎は施行日が8月9日と長崎の原爆投下日になっていました。

こうした思いが、平和式典への招待国の区別に出ていると思います。難しい判断ですが、呼ばれなかったロシアは、これまでのことで、後日、独自に広島、長崎を訪れていると聞いています。*この後段の段落の情報は、政治団体：一水会のネット情報によるものです。

他方で、第二次世界大戦を終結させるために原爆を投下したと言う国家であるアメリカは、一貫して広島長崎への平和式典への参加を拒否されたことは無いものと承知しています。

広島市は平和政策を世界に向けて提唱しているが、核兵器廃絶を目指した取組の推進は最も重要な施策となっています。そこで、平和首長会議の呼びかけを行っていますが、もちろん日本は最大の参加自治体数(1740)を数え、ドイツ、イタリアなどの欧州各国でその参加数が目立っていますが、2位はイランとなっており、1017の自治体が参加しています。尋ねると、イランの中で積極的にその参加を誘った首長があり、中東の参加がグラフに見当たらないところ、群を抜いて目立っていました。ありがたいことです。

7「ピースツーリズムについて」講義(広島市観光政策部担当者) 15:15-16:30

平和政策の提唱は、世界の平和の拠点に人を集め、その来訪者に核兵器の恐ろしさを知ってもらうことの重要性を地道に作り上げていました。

来訪者は2019年まで伸びを示し、コロナ期に停滞し、その後は快調にあるが、2024年度がその水準に復活するかどうか、これからも発展につながるようでした。

また、これまでの来訪では欧州が最大になっていました。



私の前の議員はゴーグルを被り、3D 体験を行っている。